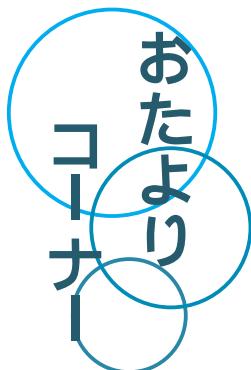


交流のひろば

古い前橋市内の風景写真をお持ちの人は、市役所広報広聴課 890-6642へお願いします。



障害者への理解 広がっています

昭和町二丁目 戸塚 登志江 59
わたしは先日、花火大会に出掛けたとき、大変うれしい気持ちになりました。というのも、わたしは車いすを使用しているのですが、警察をはじめ、警備係の人や見物客にも道を開けてもらつて、安全に花火を見ることができたからです。

数年前にも、花火を見に行つたことがあります。しかしその時は、人に押されたり、倒れそうになつたりして、怖い思いをしたのです。その記憶が残り、その後は、近くまで見に行きたいけれど、混雑するので行けない、とあきらめています。今年は、たまたま十五日に親せきが来ていたので、会場へ出掛けることに。最初は少し気が重かったのですが、出向いてみると、皆さんのお陰で、気持ちよく、安心して花火を見ることができました。

現在では少しづつ、人々の間に障害者に対する理解が広まつてきていました。このたび、花火大会に出掛けたとき、大変うれしい気持ちになりました。というのも、わたしは車いすを使用しているのですが、警察をはじめ、警備係の人や見物客にも道を開けてもらつて、安全に花火を見ることができます。

まちのニュース

NEWS

小学生奏でる 日本の音色

城東町四丁目

城東町四丁目では週末、小学生が同町会館で琴の練習に打ち込んでいます。本年度から学校週五日制が始まり、地域の交流を深めようとして、琴の体験教室を同町自治会が開催したところ、子どもたちに大好評。もっと琴を習いたいとの声

が上がり、七月に「城東町四丁目親子お祭の会」が発足しました。練習を始めて一ヶ月足らずですが、上達の早さに先生もびっくりする様子。十月に行われる市青少年健全育成大会のオープニングに出演が決定し、晴れ舞台に向けて演奏曲さくら21の練習にも熱が入ります。同町の篠原良自治会長は、「子どもたちに琴の話をしたら、とっても興味深そうだったんです。早くこの会をつくりました。練習を通して、子どもたちに自主性や協調性、人を思いやる心、感動する心を育ててほしいですね」と話していました。

まえばしの今と昔



昭和四十六年に完成した六供清掃工場です（写真上、写真下は現在）。公害問題などに万全を期した

一日300トンの 処理能力 ——六供清掃工場——

連続燃焼式放射型機械炉二基が設置されました。総工費四億五千万円、一日の処理能力は三百トン。現在の清掃工場は、平成三年に建設されました。



8月15日号の「敷島公園ボート場」は「前橋公園下ボート場」でした。訂正します。

